

令和 6 年 5 月 20 日現在

機関番号：64401

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19H00565

研究課題名(和文) 北米アラスカ・北西海岸地域における先住民文化の生成と現状、未来に関する比較研究

研究課題名(英文) A Comparative Study of Emergence, Current Status and Future of Indigenous Cultures in Alaska and Northwest Coast Regions of North America

研究代表者

岸上 伸啓 (Kishigami, Nobuhiro)

国立民族学博物館・学術資源研究開発センター・教授

研究者番号：60214772

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 33,500,000円

研究成果の概要(和文)：本プロジェクトでは、北米のアラスカ及び北西海岸地域の先住民社会における150年以上にわたる植民地化や地下資源開発、気候変動、その他の災害の諸影響と先住民による対応についてアート制作や生業漁業・商業漁業、有形・無形の伝統文化に着目しながら解明した。その研究成果は、国際シンポジウムや展示、出版を通して発表した。また、レジリエントで持続可能な先住民社会・文化を将来的に構築するためには現地の先住民や国内外の研究者との協働研究が不可欠であるため、本プロジェクトにおいて先住民ソース・コミュニティと国内外の研究者・研究機関の研究協力のためのネットワーク形成を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

北アメリカのアラスカおよび北西海岸先住民の諸文化・諸社会の過去150年の歴史的変化および将来について、現地の先住民社会と海外の研究者・研究機関と連携しながら基礎的な調査研究を実施した研究はこれまでにないため、学術的な意義がある。また、その成果を北アメリカ先住民の将来社会の構築に役立てようと試みる点に社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：In this project, we investigated colonization, resource development, climate change, and other impacts of disasters on Indigenous communities in Alaska and the Northwest Coast region of North America spanning over 150 years. We focused on art production, subsistence and commercial fishing, and traditional tangible and intangible culture to elucidate Indigenous responses. The research findings were disseminated through international symposiums, exhibitions, and publications. Moreover, recognizing the necessity of collaborative research with local Indigenous peoples and researchers both domestically and internationally to build resilient and sustainable Indigenous societies and cultures in the future, we established networks for research cooperation between Indigenous source communities and domestic and international researchers and research institutions in this project.

研究分野：文化人類学

キーワード：アラスカ 北アメリカ北西海岸地域 社会・文化変化 脱植民地化 生業 アート 気候変動 資源開発

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

大航海時代以降に植民地化や国家との関係において生成され、かつ変化してきた「先住民」社会は、人類史の中で近代から現代に特有な政治経済状況で創り出されてきた人類社会の一カテゴリーであるといえる。そして各国の先住民社会を主流社会から区別し、特徴づけているのが、独自の象徴的な文化要素やアイデンティティなどから構成されている彼らの文化、すなわち所与の時点における特定の人間集団の生活様式である。

グローバル化やネオリベリズムが浸透する現代世界では、各地で少数の富者と多数の貧者へという二極化が顕在化するとともに、文化的には多様化と同質化が同時進行している。また、温暖化のような地球規模での環境問題が発生している。このような状況下で世界各地の先住民文化は存亡の危機に陥っている。現代世界における多民族共生を考える上で、国家や世界経済の中で周辺的な位置にある先住民の社会と文化の理解は不可欠である。本研究課題の中心的な問題意識は、現在、先住民文化を呼ばれているものがどのように形成され、今後、どのように変化していくのかについて、大航海時代以来、世界政治経済システムの中で周辺的存在であり続けてきた北アメリカのアラスカ地域と北西海岸地域の先住民社会を事例として解明することである。

環北太平洋文化圏の一部を形成する北太平洋沿岸地域の北アメリカ先住民社会は、類似した自然環境下でのサケ・マス漁および海獣狩猟を共通の経済基盤とし、欧米人との接触以降は、欧米人との毛皮取引に巻き込まれた後、アメリカとカナダという国家へ包摂され、現在に至るといって類似した歴史的経験を共有しており、諸先住民文化の変化や現状を生み出した諸要因を検証する上で、比較検討しやすい条件下にあることが本研究の背景にある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、北米のアラスカ地域および北西海岸地域の各地においてかつて狩猟採集民であった民族諸集団が先住民としてどのような文化を生成し、それらがどのように変化し、現在に至り、さらにどのように変化していくのかについて諸文化における変化の差異と類似性に着目しながら解明することである。とくに、経済要因(グローバル経済やネオリベリズムの浸透)、政治要因(植民地化や国家への政治的包摂)、環境要因(温暖化といった生態環境の変化)、社会要因(伝染病や自然災害などによる人口減少に伴う社会の再編成)、思想的要因(キリスト教化の浸透)といった諸要因(アクター)と先住民社会との間でいかなる歴史的相互作用が見られ、彼らが先住民として独自の文化をどのように生成してきたかに関して明らかにする。その上で、歴史的変化と現状と将来への展望を地域間で比較することにより、北米先住民文化の生成過程に関して一般化を試みる。

3. 研究の方法

研究方法は(1)現地調査、(2)文献調査および(3)共同研究会の実施である。

(1) 研究代表者と分担者は、アラスカ内陸部・沿岸部およびカナダのバンクーバー島およびハイダ・グワイにおいて現地のソース・コミュニティの人びとと協働してフィールドワークを実施してデータの収集を行った。コロナ禍で現地調査ができなかった時期は、フェイスブックや電子メール、ズーム等を利用して現地の人びとと情報交換やインタビューを実施した。

(2) コロナ禍で現地調査ができなかった時期があったため、国内外の図書館や研究文献データベースを活用して北アメリカのアラスカおよび北西海岸地域の先住民の歴史、社会、文化、環境問題、政治経済問題に関する書籍・論文・報告書を渉猟し、研究動向や研究成果について最新の網羅的な情報を収集し、検討を加えた。

(3) 国内外から先住民や研究者を招聘し、共同研究的なシンポジウムや展示会を実施し、研究成果について検討を加えた。

4. 研究成果

本研究プロジェクトでは、下記のような研究成果を得た。プロジェクト全体の成果(1)と研究代表者・研究分担者の個別の成果(2)～(5)、付加的な研究成果(6)をそれぞれ要約する。

(1) 本プロジェクトでは北アメリカのアラスカ地域および北西海岸地域の先住民社会の変化と将来に関して調査研究を実施した結果、過去150年を見るとこの地域の先住民は、アメリカとカナダという国家の政策には違いが見られるものの、自律期、接触期、植民地化期、同化期、再自律化(脱植民地化)期という過程を経て、現在、将来社会の構築に取り組んでいる点を確認した。その過程の中で、欧米人による植民地化や彼ら・彼女らが樹立した植民者国家への政治的包摂、1800年代のキリスト教の浸透、1862年の天然痘の流行などによる人口減少に伴う先住民社会の再編成、グローバル経済やネオリベリズムの浸透、石油等の天然資源開発、温暖化といった気候変動の諸影響、先住民運動といった共通の諸アクター(要因)が、先住民社会と相互に絡み合

いながら先住民の生活を生成させてきたことが明らかになった。現地調査に基づくと北アメリカのアラスカと北西海岸地域の先住諸民族の間では、現在、彼ら/彼女らのアイデンティティに係わる母語や有形・無形の伝統文化、伝統的知識の復活・維持・促進を目的としたさまざまな取り組みが行われていることが判明した。すなわち、経済のグローバル化やネオリベリズムの展開、気候変動の影響など人類共通の危機に直面している現在の状況下で、この地域の先住民は、自らのアイデンティティと存在を象徴的にコミュニティ内外に示すために各先住民族に特有な文化的特徴や要素（母語、捕鯨活動、ポトラッチ儀礼、踊り、トーテムポールなどの有形文化財やアート作品、自然環境との独自の関係性など）を選び出し、「伝統文化」として創造的に継承しながら、独自の将来社会を構築しようと模索している。近年は、この地域の先住諸民族は、先住民をめぐる国際的な動きの支援を得て、とくに経済分野や政治分野、芸術分野において自律化（脱植民地化）を推し進め、自らの将来社会を構築しようとしていると言える。

(2) 岸上伸啓は、カナダのハイダ・グワイのハイダ社会およびバンクーバー島のクワクワカワク社会のアート制作やポトラッチ儀礼の歴史的变化について調査した結果、アート制作、特に1960年代に導入されたスクリーン版画、1990年代後半に導入されたジークレー版画について作品のモチーフや表現様式、制作技法を詳細に分析し、版画制作を通して伝統的な世界観や知識が後継世代に伝達されているとともに、新たな試みが行われていることを例証し、伝統的文化が創造的に継承されていることを指摘した。また、版画等アート作品が、先住民の政治的主張を表明する手段や環境問題や紛争問題を告発する手段として自らの将来社会を構築しようとしているとともに、カナダ社会全体の変化を促そうとしていることを明らかにした。さらにモチーフや制作技法の変化を分析することによって、版画制作がカナダ社会や国際社会の政治経済的な動きと連動していることを検証した。これらの点を総合すると、カナダの北西海岸先住民社会では脱植民地化が着実に進行しているという結論を得た。加えて、ハイダ社会におけるポトラッチ儀礼の実施やハイダ社会とクワクワカワク社会におけるトーテムポール制作に関する調査によって、それらの準備や実施過程において伝統的なクラン制度や拡大家族関係に基づく親族関係が現在でも機能していることを確認した。表面上の大きな社会・文化変化が見られてきた一方で、伝統的な社会関係が継続されていると言える。

(3) 生田博子は、アラスカのウットキアグヴィックの石油開発やユーコン川・クスコクイン川流域の金鉱開発などの天然資源開発をめぐる先住民族の動きについて調査し、先住民族は一枚板ではなく、同じグループ内やグループ間で多様な意見が存在していることを明らかにした。この研究によって現在のアラスカ先住民は、民族的な違いだけでなく、所属する連邦承認トライブの違い、伝統的生活領域の違い、社会経済領域の違い等それぞれが異なった状況の中で生活していることが判明した。

(4) 立川陽仁は、カナダBC州キャンベル・リバーにおいて現地に住むクワクワカワクという先住民族の漁撈及び採集活動の調査を実施するとともに、サケ漁業やサケ養殖業が衰退してきた状況下において彼ら/彼女らの経済的自立化の調査を行った。2018年に使用が合法化された娯楽用大麻を栽培し、販売し大きな利益を上げている事例や家族単位で運送業者として起業し、SNSを活用して事業の拡大を試みている事例を初めて報告し、検討を加えた。その結果、「大麻の合法化が先住民に経済的自立をもたらす」という社会的期待に、疑問を呈している。

(5) 手塚薫は、自然災害などに直面した小規模コミュニティの復興過程を念頭において、米国のアメリカ自然史博物館、シェルドン・ジャクソンアラスカ州立博物館、トーマス・パーク博物館等において海洋交通具などの物質文化を対象とした収蔵資料調査を実施した。北アメリカのアラスカおよび北西海岸地域の先住民社会では近年、博物館資料をベースとし、伝承されてきた製作技術を加味して復元し航海する試み（Angyaaq Tribal Canoe Project等）が行われ、若い世代を含む地域社会再生・復興の原動力となっていることを確認した。

(6) 本プロジェクトでの研究成果の発信や検討を目的として、国内外の研究者や現地のソース・コミュニティの人びとを招聘し、連携して、一般公開シンポジウム「環北太平洋地域の先住民社会の先史、言語、文化」(2022.10.29-30)、企画展「カナダ北西海岸先住民のアート スクリーン版画の世界」(2023.9.7~12.12)、国際シンポジウム“Prehistory, Language and Culture of Indigenous Societies in the North Pacific”(2023.11.3-5)等を実施した。この企画・実施の結果、北アメリカのアラスカおよび北西海岸地域の先住民文化研究を協働して実施するための国際的研究者・先住民ネットワークの形成に大きく貢献した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計36件（うち査読付論文 25件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 岸上伸啓	4. 巻 93
2. 論文標題 北アメリカ北西海岸先住民の社会変化とスクリーン版画	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 人文論究	6. 最初と最後の頁 17-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岸上伸啓	4. 巻 43
2. 論文標題 <基調報告>カナダ先住民の近現代の歴史と現状 - 北西海岸先住諸民族の脱植民地化を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 カナダ研究年報	6. 最初と最後の頁 35 - 52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岸上伸啓	4. 巻 156
2. 論文標題 北アメリカ北西海岸地域のハイダ民族に関する研究動向について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国立民族学博物館調査報告	6. 最初と最後の頁 387 - 427
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 岸上伸啓	4. 巻 92
2. 論文標題 先住民研究における新たな展開についてーカナダの場合を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 人文論究	6. 最初と最後の頁 13 - 26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Kishigami, Nobuhiro	4. 巻 1
2. 論文標題 Historical Changes in Human Relationships with Whales: Historical Ecology of Inupiat and Bowhead Whales in Alaska.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 In K. Ikeya and W. Balee (eds.) Global Ecology in Historical Perspectives, Singapore: Springer	6. 最初と最後の頁 209 - 222
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤祉秋	4. 巻 156
2. 論文標題 アラスカ先住民社会における「文化キャンプ」に関する研究動向	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国立民族学博物館調査報告	6. 最初と最後の頁 263 - 275
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 近藤祉秋	4. 巻 1178
2. 論文標題 多種を真剣に受け取ること ピーパーとギンザケのマルチスピーシーズ民族誌から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 27 - 42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 生田博子・久保田亮	4. 巻 156
2. 論文標題 南西アラスカ・クスコクイン川流域における生業、野生動物管理、金鉱開発の研究動向	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国立民族博物館調査報告	6. 最初と最後の頁 277 - 314
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kenji Yoshikawa, Alexey Maslakov, Gleb Kraev, Hiroko Ikuta, Vladimir Romanovsky, Craig George, Anna E. Klene, and Kelsey Nyland	4. 巻 75(2)
2. 論文標題 Food Storage in Permafrost and Seasonally Frozen Ground in Chukotka/Alaska Communities	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Arctic	6. 最初と最後の頁 225 - 241
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 立川陽仁	4. 巻 156
2. 論文標題 北アメリカ北西海岸の環境論史の動向	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国立民族博物館調査報告	6. 最初と最後の頁 461-484
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kishigami, Nobuhiro	4. 巻 104
2. 論文標題 World Whaling and Recent Whaling Research Trends	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Senri Ethnological Studies	6. 最初と最後の頁 1 - 30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kishigami, Nobuhiro	4. 巻 104
2. 論文標題 Food Security, Food Sovereignty, Bowhead Whale Hunts among the Inupiat in Utqiagvik, Alaska, USA	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Senri Ethnological Studies	6. 最初と最後の頁 93 - 112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岸上伸啓	4. 巻 4
2. 論文標題 カナダ先住民の疫病との戦い 北西海岸地域のハイダと極北地域のイヌイト	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 秋道智彌・角南篤編『疫病と海』（海とヒトの関係学）	6. 最初と最後の頁 61 - 74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岸上伸啓	4. 巻 30
2. 論文標題 北アメリカ北西海岸先住民と生き物の不思議な関係 ワタリガラスを中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Biostory（ビオストーリー）	6. 最初と最後の頁 20 - 24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤祉秋	4. 巻 0
2. 論文標題 序章 人間以上の世界から「食」を考える	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 近藤祉秋・吉田真理子（編）『食う、食われる、食いあう マルチスピーシーズ民族誌の思考』	6. 最初と最後の頁 9 - 65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤祉秋	4. 巻 86(3)
2. 論文標題 危機の「予言」が生み出す異種集合体：内陸アラスカ先住民の過去回帰言説を事例として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 417 - 436
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤祉秋	4. 巻 86(1)
2. 論文標題 内陸アラスカ先住民の世界と「刹那的な絡まりあい」：人新世における自然=文化批評としてのマルチスピーシーズ民族誌	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 96 - 114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 手塚薫	4. 巻 70
2. 論文標題 『記憶地図』を用いた奥尻島賽の河原祭の可視化と知識変換	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文論集	6. 最初と最後の頁 25 - 46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 手塚薫	4. 巻 17
2. 論文標題 『記憶地図』を通じた奥尻島の2つの例祭巡行の比較	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北海道民族学	6. 最初と最後の頁 33 - 49。
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岸上伸啓	4. 巻 45(4)
2. 論文標題 国立民族学博物館のビル・ヘンダーソン制作のトーテムポールについて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立民族学博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 655-680
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kishigami, Nobuhiro	4. 巻 104
2. 論文標題 Food Security, Food Sovereignty, and Bowhead Whale Hunts among the Inupiat in Utqiagvik, Alaska, USA.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Senri Ethnological Studies	6. 最初と最後の頁 93-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 近藤 祉秋	4. 巻 1
2. 論文標題 北米先住民研究における「歴史的トラウマ」論の展開	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アイヌ・先住民研究	6. 最初と最後の頁 53-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kondo, Shiaki and Heather Anne Swanson	4. 巻 68(2)
2. 論文標題 鮭鱒論 (salmon trout theory) and the politics of non-Western academic terms	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 SOCIOLOGICAL REVIEW	6. 最初と最後の頁 435-451
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Ikuta, Hiroko	4. 巻 104
2. 論文標題 Political Strategies for the Historical Victory in Aboriginal Subsistence Whaling in the Alaskan Arctic: The International Whaling Commission Meeting in Brazil, 2018	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Senri Ethnological Studies	6. 最初と最後の頁 211-225
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 立川陽仁	4. 巻 38
2. 論文標題 ポスト漁業時代のポスト漁業時代の北西海岸先住民による起業状況 クワクワカワクウ社会における調査の中間報告	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文論叢	6. 最初と最後の頁 81 - 94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 手塚薫	4. 巻 70
2. 論文標題 『記憶地図』を用いた奥尻島賽の河原祭の可視化と知識変換	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文論集	6. 最初と最後の頁 25-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岸上伸啓	4. 巻 89
2. 論文標題 アラスカ先住民社会における食料の安全保障と食料の主権について 2010年代のアラスカ州ウットウキアグヴィク(旧バロー)のイヌピアットの事例を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人文論究	6. 最初と最後の頁 59-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岸上伸啓	4. 巻 54
2. 論文標題 米国アラスカ地域の捕鯨文化における気候変動の諸影響 ウトキアグヴィクのイヌピアットの事例を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アークトス (ARKTOS)	6. 最初と最後の頁 1 - 4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岸上伸啓	4. 巻 34
2. 論文標題 北米アラスカ・北西海岸地域研究から見た環北太平洋沿岸諸先住民族文化の比較研究の展望	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北海道立北方民族博物館編『第34回北方民族文化シンポジウム網走 報告 環北太平洋地域の伝統と文化 4 アラスカ・ユーコン地域』網走：北方文化振興協会	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤祉秋	4. 巻 0
2. 論文標題 聞く犬の誕生：内陸アラスカにおける人と犬の百年	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大石高典・近藤祉秋・池田光穂（共編）『犬からみた人類史』勉誠出版	6. 最初と最後の頁 234-253
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤祉秋	4. 巻 2
2. 論文標題 赤肉団上に無量無辺の異人あり：デネの共異身体論	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 たぐい	6. 最初と最後の頁 28-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤祉秋	4. 巻 0
2. 論文標題 先住民とモニタリング	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 田畑伸一郎・後藤正憲（共編）『北極の人間と社会 持続的発展の可能性』北海道大学出版会	6. 最初と最後の頁 151-181
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤祉秋	4. 巻 34
2. 論文標題 資源採掘とアラスカ先住民の関係 ダンリン金鉱山プロジェクトの事例から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北海道立北方民族博物館編『第34回北方民族文化シンポジウム網走 報告 環北太平洋地域の伝統と文化 4 アラスカ・ユーコン地域』網走：北方文化振興協会	6. 最初と最後の頁 27-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 立川陽仁	4. 巻 171
2. 論文標題 トテムポール - 北西海岸アートの歴史といま	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 季刊 民族学	6. 最初と最後の頁 74-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 立川陽仁	4. 巻 37
2. 論文標題 カナダ太平洋沿岸水域における気候変動の影響に関する近年の研究動向	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人文論叢	6. 最初と最後の頁 79 - 88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 手塚薫	4. 巻 32
2. 論文標題 祭礼の可視化と記憶地図	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北海学園大学学芸員課程学事報告書	6. 最初と最後の頁 46-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計31件（うち招待講演 8件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 Tezuka, Kaoru
2. 発表標題 The Interaction of Complex Hunter-Gatherer Societies with the Development of Seafaring Technology in the Late Pleistocene in the North Pacific Rim
3. 学会等名 The International Symposium "Prehistory, Language and Culture of Indigenous Societies in the North Pacific" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Ikuta, Hiroko
2. 発表標題 Food Security and Wildlife Sharing among Alaska Natives
3. 学会等名 The International Symposium "Prehistory, Language and Culture of Indigenous Societies in the North Pacific" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 岸上伸啓
2. 発表標題 北アメリカ北西海岸先住民社会の変化と先住民アート：版画を中心に
3. 学会等名 日本文化人類学会第57回研究大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kishigami, Nobuhiro
2. 発表標題 Research Trends in Anthropological Studies of Indigenous Cultures and Societies in the North Pacific Rim
3. 学会等名 The International Symposium "Prehistory, Language and Culture of Indigenous Societies in the North Pacific" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kishigami, Nobuhiro
2. 発表標題 Social Change and Indigenous Art of Northwest Coast People
3. 学会等名 The International Symposium "Prehistory, Language and Culture of Indigenous Societies in the North Pacific" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 岸上伸啓
2. 発表標題 カナダ北西海岸先住民のスクリーン版画の世界
3. 学会等名 民族藝術学会第170回研究例会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 岸上伸啓
2. 発表標題 基調講演 カナダ先住民の近代史と現状 北西海岸先住民を中心に
3. 学会等名 日本カナダ学会第47回大会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岸上伸啓
2. 発表標題 先住民研究の課題および調査方法の変化と展望 北米北西海岸先住民研究を中心に
3. 学会等名 日本文化人類学会第56回研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岸上伸啓
2. 発表標題 北アメリカ北西海岸先住民アートの新たな展開
3. 学会等名 民族藝術学会第38回研究大会（オンライン開催）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 近藤祉秋
2. 発表標題 信じる者は生き残る 内陸アラスカ先住民社会の感染症と宗教
3. 学会等名 上智大学キリスト教文化研究所・第49回連続講演会「病と宗教 COVID19の経験からみる差別と救済の境界」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Tachikawa, Akihito
2. 発表標題 12 Years after the Cohen Commission: "Do the Kwakwaka'wakw Really Sell Out the Licenses?" Above the Permafrost: How Climate Change and Resource Development Are Changing Local Life in the Arctic
3. 学会等名 Slavic Eurasian Research Center 2022 Winter International Symposium
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 立川陽仁
2. 発表標題 カナダ、北西海岸先住民族の現代における起業とその背景
3. 学会等名 一般公開シンポジウム「環北太平洋地域の先住民社会の先史、言語、文化」（国立民族学博物館）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岸上伸啓
2. 発表標題 環北太平洋地域の先住民文化に関する比較研究 大林太良と渡辺仁の視点
3. 学会等名 第35回北方民族文化シンポジウム網走「大林太良・学問と北方文化研究 大林太良先生没後20年記念シンポジウム 」2021年10月17日、北方文化振興協会・北海道立北方民族博物館主催（オンライン開催）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岸上伸啓
2. 発表標題 ホッキョククジラとともに生きるアラスカの捕鯨民イヌピアット 変化し続ける人間と生き物の関係性
3. 学会等名 2021年京都人類学研究会8月例会「環境のなかに「住まう」こと～生物（いきもの）がつむぎ、つむがれる世界へ」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岸上伸啓
2. 発表標題 北アメリカ先住民の社会・文化変化と疫病 北西海岸先住民ハイダを事例として
3. 学会等名 日本文化人類学会第55回研究大会、京都大学B会場（オンライン開催）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 近藤祉秋
2. 発表標題 「俺たちは苦難の時には山に行ったんだらう？」 内陸アラスカ先住民が語るコロナ禍中の過去回帰言説
3. 学会等名 第55回日本文化人類学会研究大会、5月29日（オンライン開催）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 近藤祉秋
2. 発表標題 異種集合体の「備え」とコロナ禍 内陸アラスカ先住民の過去回帰言説を事例として
3. 学会等名 第86回神戸人類学研究会、6月25日（Zoomによるオンライン開催）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岸上伸啓
2. 発表標題 北アメリカ北西海岸先住民と生き物の不思議な関係ーワタリガラスを中心に
3. 学会等名 生き物文化誌学会第79回例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岸上伸啓
2. 発表標題 トーテムポール カナダ北西海岸先住民の宝
3. 学会等名 第505回 国立民族学博物館友の会講演会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岸上伸啓
2. 発表標題 「食料の主権」からみたアラスカ先住民社会における生業活動の重要性ーイヌピアットの捕鯨を事例としてー
3. 学会等名 日本文化人類学会第54回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 手塚 薫
2. 発表標題 地域課題に直面する奥尻島青苗言代主神社例祭とその対応
3. 学会等名 第14回歴史都市防災シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岸上伸啓
2. 発表標題 北米アラスカ・北西海岸研究からみた環北太平洋沿岸諸先住民文化の比較研究の展望
3. 学会等名 第34回北方民族文化シンポジウム網走「環北太平洋地域の伝統と文化 4 アラスカ・ユーコン地域」、網走市オホーツク・文化交流センターにおいて（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岸上伸啓
2. 発表標題 環北太平洋沿岸地域におけるカナダ西海岸先住民文化の位置づけ 新たな地域研究の視座
3. 学会等名 日本カナダ学会第44回年次研究大会、鹿児島純心女子大学において
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nobuhiro KISHIGAMI
2. 発表標題 Food Security and Sovereignty Problems among the Inupiat in Utqiagvik, Alaska, USA
3. 学会等名 IUAES 2019 Inter-Congress “World Solidarities” at Morasko Campus, Adam Mickiewicz University in Poznan, Poland
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岸上伸啓
2. 発表標題 環北太平洋地域における先住民文化の比較研究に関する一考察：歴史、現状、未来
3. 学会等名 日本シベリア学会第5回研究大会、同志社女子大学において
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岸上伸啓
2. 発表標題 人間とクジラの関係の歴史的变化に関する一考察 アラスカ先住民イヌピアットとホッキョククジラを中心に
3. 学会等名 第53回日本文化人類学会研究大会、東北大学において
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 近藤祉秋
2. 発表標題 内陸アラスカのサケ漁撈史と現代的課題：科学人類学と狩猟採集民研究のはざままで
3. 学会等名 第53回日本文化人類学会研究大会、東北大学において
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shiaki KONDO
2. 発表標題 Northern Pacific Collaborations for Educating New Generations of Indigenous Studies Scholars
3. 学会等名 The 118th Annual Meeting of the American Anthropological Association. Vancouver Convention Center, Canada
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 近藤祉秋
2. 発表標題 アラスカ先住民による環境管理
3. 学会等名 第34回北方民族文化シンポジウム網走「環北太平洋地域の伝統と文化 4 アラスカ・ユーコン地域」、網走市オホーツク・文化交流センターにおいて（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 近藤祉秋
2. 発表標題 アラスカ先住民による環境管理
3. 学会等名 第34回北方民族文化シンポジウム網走「環北太平洋地域の伝統と文化 4 アラスカ・ユーコン地域」、網走市オホーツク・文化交流センターにおいて（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 近藤祉秋
2. 発表標題 アラスカ先住民による環境管理
3. 学会等名 第34回北方民族文化シンポジウム網走「環北太平洋地域の伝統と文化 4 アラスカ・ユーコン地域」、網走市オホーツク・文化交流センターにおいて（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計17件

1. 著者名 岸上伸啓（編著）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 284
3. 書名 北太平洋の先住民文化	

1. 著者名 生田博子・久保田亮（共著）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 284
3. 書名 北太平洋の先住民文化	

1. 著者名 立川陽仁（共著）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 284
3. 書名 北太平洋の先住民文化	

1. 著者名 岸上伸啓（編著）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 284
3. 書名 北太平洋の先住民文化 歴史・言語・社会	

1. 著者名 生田博子・久保田亮（共著）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 284
3. 書名 北太平洋の先住民文化 歴史・言語・社会	

1. 著者名 立川陽仁 (共著)	4. 発行年 2024年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 284
3. 書名 北太平洋の先住民文化 歴史・言語・社会	

1. 著者名 岸上伸啓 (編著)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 国立民族学博物館	5. 総ページ数 491
3. 書名 環北太平洋沿岸地域の先住民文化に関する研究動向	

1. 著者名 近藤祉秋	4. 発行年 2022年
2. 出版社 慶応義塾大学出版会	5. 総ページ数 240
3. 書名 犬に話しかけてはいけないー内陸アラスカのマルチスピーシーズ民族誌	

1. 著者名 Ikuta, Hiroko	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 204
3. 書名 The Sociality of Indigenous Dance in Alaska: Happiness, Tradition, and Environment among Yupik on St. Lawrence Island and Inupiat in Utqiagvik (Arctic Worlds)	

1. 著者名 関根達人・菊地勇夫・手塚薫・北原次郎太編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 676
3. 書名 アイヌ文化史辞典	

1. 著者名 Kishigami, Nobuhiro	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 164
3. 書名 Food Sharing in Human Societies	

1. 著者名 Kishigami, Nobuhiro (ed.)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 National Museum of Ethnology	5. 総ページ数 358
3. 書名 World Whaling: Historical and Contemporary Studies	

1. 著者名 近藤祉秋・吉田真理子（編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 282
3. 書名 食う、食われる、食い合う マルチスピーシーズ民族誌の思考	

1. 著者名 奥野克巳、近藤祉秋、ナターシャ・ファイン（編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 以文社	5. 総ページ数 320
3. 書名 モア・ザン・ヒューマン マルチスピーシーズ人類学と環境人文学	

1. 著者名 藤野陽平、奈良雅史、近藤祉秋（共編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 265
3. 書名 モノとメディアの人類学（シリーズ メディアの未来）	

1. 著者名 浜田明範、西真如、近藤祉秋、吉田真理子（共編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 369
3. 書名 新型コロナウイルス感染症と人類学：パンデミックとともに考える	

1. 著者名 古川柳蔵・生田博子共編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 筑波書房	5. 総ページ数 151
3. 書名 在来知と社会的レジリエンス：サステナビリティに活かす温故知新	

〔産業財産権〕

〔その他〕

北米アラスカ・北西海岸地域における先住民文化の生成と現状、未来に関する比較研究
<https://www.r.minpaku.ac.jp/inuit/>
 北米アラスカ・北西海岸地域における先住民文化の生成と現状、未来に関する比較研究
<https://www.minpaku.ac.jp/post-project/5185>
 北米北方先住民関連文化資源データベース
<https://ifm.minpaku.ac.jp/canada/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	立川 陽仁 (Tachikawa Akihito) (20397508)	三重大学・人文学部・教授 (14101)	
研究分担者	手塚 薫 (Tezuka Kaoru) (40222145)	北海学園大学・人文学部・教授 (30107)	
研究分担者	近藤 祉秋 (Kondo Shiaki) (80779273)	神戸大学・国際文化学研究所・講師 (14501)	削除：2023年8月9日 2019年度～2022年度に参加
研究分担者	生田 博子 (Ikuta Hiroko) (90783829)	九州大学・留学生センター・准教授 (17102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 The International Symposium "Prehistory, Language and Culture of Indigenous Societies in the North Pacific" National Museum of Ethnology, Osaka, Japan	開催年 2023年～2023年
--	--------------------

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------